調査・研究から

伊豆東岸定置網における主要魚種の

平成 29 年上半期の漁況経過と下半期の漁況予測

1　平成 29 年上半期(1～6 月)の経過

（1）　総漁獲量

伊豆半島東岸大型定置網７か統（伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）における平成 29 年 1～6 月の魚種別月別漁獲量を表 1 に示しました。総漁獲量は 1,527 トンで、前年の 69%、平年（2000～2016 年平均値）の 70%でした。多獲された魚種は、ブリ、さば類、カタクチイワシ、マイワシ、マアジでした。

（2）　魚種別漁獲量（ブリ・マアジ・さば類）

（ア）ブリ

ブリ（ぶり、わらさ、いなだ、わかし）の漁獲量は 468 トンで、前年比 80%、平年（2000～2016 年平均値）比 2.6 倍でした。銘柄別にみると、ぶりは 204 トンで、前年比 1.1 倍、平年比 2.2 倍、尾数では 25 千尾で、前年の 1.0 倍、平年の 2.0 倍でした。わらさは 225 トンで、前年比 56%、平年比 2.9 倍、いなだは 35.8 トンで、前年の 5.9 倍、平年の 3.0 倍でした。わかしは 4.3 トンで、前年比 5.0 倍、平年比 20.2 倍と、前年、平年を大きく上回りましたが、1 月の漁獲量には古網漁場での蓄養わかしの水揚量が計上されているため、実際のわかしの漁獲量は 4.3 トンを大きく下回ると考えられます。(古網漁場では蓄養わかし水揚量を記録していなかったため、漁獲量を推定できない)。

漁獲されたブリは、1 月は尾叉長 65～70cm のわらさ主体（わかしの漁獲量が最も多いが、上述の通り蓄養水揚量が含まれているため、考慮しないこととした)、2～3 月は 75～85cm のぶり・わらさ主体、4 月は 70cm 前後のわらさ主体でした。5～6 月は 70cm 前後のわらさ主体に、50cm 前後のいなだも混じりました。

（イ）マアジ

マアジ（じんだ除く）の漁獲量は 43.7 トンと、前年を上回ったものの、平年（1982～2016 年平均値）を大きく下回りました（前年比 1.5 倍、平年比 9%)。月別にみると、5 月を除き前年を上回る漁獲で、最も漁獲量が多かったのは 6 月でした。じんだの漁獲量は 95kg と前年、平年を大きく下回る（前年比 41%、平年比 1%）極めて低調な漁獲でした。

漁獲されたマアジは、1～4 月は尾叉長 15～20cm の１歳魚が主体でしたが、4 月以降は、これらに加え、尾叉長 10cm 前後の 0 歳魚（ジンダ）および尾叉長 25cm 以上の 2 歳魚以上の大型魚もみられました。6 月は大型個体の漁獲が特異的に多

く、尾叉長組成は30cm以上の個体が33%を占めていました（過去の調査結果では30cm以上の個体は数%程度）。

（ウ）サバ類

ゴマサバの漁獲量は298トンで、前年の43%、平年（1982～2016年平均値）の84%でした。月別にみると1～4月は前年を下回ったものの、6月を除き平年並みの漁獲でした。漁獲されたゴマサバは、期を通じて尾叉長30～40cmの2歳魚以上主体で、5月以降は15cm前後の当歳魚も混じりました。

マサバの漁獲量は73.1トンで、前年の1.2倍、平年の98%でした。月別にみると、2～4月に漁獲量が多く、近年（2001年以降）の伊豆東岸定置網におけるマサバの漁獲盛期（4～6月）と異なっていました。同様の傾向は2016年にも見られており、漁獲盛期が変化しつつある可能性が示唆されました。漁獲されたマサバは、1～5月は尾叉長30～40cmの3歳魚以上主体でした。5月以降、10cm前後の当歳魚が混じるようになり、7月にかけて20cm前後まで成長しました。さばっこ（さば類小型当歳魚銘柄）の漁獲量は1.4トンで、前年の35%、平年の8%でした。

表1　伊豆半島東岸大型定置網7か統魚種別月別漁獲統計（kg）

魚種名（銘柄）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	総計
ブリ（ぶり）	289	1,082	200,428	1,638	78	20	203,535
ブリ（わらさ）	524	837	10,982	143,739	52,514	16,472	225,068
ブリ（いなだ）	215	88	6,468	5,563	16,413	7,009	35,756
ブリ（わかし）	※2,461	49	204	166	302	1,147	1,868
ヒラマサ	24	65	72	5,943	10,274	192	16,570
カンパチ	182	59	52	50	30	121	494
マサバ	6,677	5,692	30,054	13,309	13,478	3,914	73,124
ゴマサバ	48,515	13,264	6,865	29,534	94,632	30,435	223,245
さば類・大中小	17,152	4,299	6,686	8,053	26,771	11,502	74,463
さばっこ					179	1,172	1,351
マイワシ	346	14,648	20,290	361	7	19,954	55,606
カタクチイワシ	3,062	65,791	95,242	103,079	27,117	49,919	344,210
ウルメイワシ	825	1,806	169	3	81	9	2,893
マアジ（まあじ）	2,506	2,319	8,796	4,874	10,966	13,465	42,926
マアジ（まあじ・小）	31	85	49	114	131	330	740
マアジ（じんだ）	3	6	1	9	23	53	95
イサキ	266	788	4,802	5,565	8,794	16,543	36,758
マルソウダ	15,465	129	163	7	234	962	16,960
サワラ	22	32	3,900	6,567	3,381	1,910	15,812
トビウオ	118			69	6,315	9,252	15,754
メアジ	9,401	183			3	5	9,592
イシダイ	1,333	867	5,077	1,469	173	105	9,024
ホウボウ	914	1,355	2,146	1,159	477	216	6,267
アカカマス	1,017	770	406	9	922	2,017	5,141
メジナ	104	103	351	1,765	2,393		4,716
シイラ	19				838	3,820	4,677
マルアジ	28	18	12	1	121	4,446	4,626
ヒラメ	443	707	1,255	973	694	462	4,534
マダイ	55	465	1,455	754	605	692	4,026
フグ類	1,727	107	291	66	725	922	3,838
ムツ	354	218	382	75	1,017	1,240	3,286
ｳﾏﾂﾞﾗﾊｷﾞ・大中	307	151	1,062	373	69	12	1,974
イボダイ	473	948	127	48	130	44	1,770
カワハギ	548	123	197	174	144	78	1,264
スルメイカ	4,016	955	5,053	12,486	12,073	9,224	43,807
コイカ		5	1	37	30	16	89
ヤリイカ	294	397	560	691	605	438	2,985
アオリイカ	1,473	366	785	1,429	3,778	904	8,735
その他	2,833	2,020	2,014	1,915	4,282	4,485	17,549
総計	121,561	120,797	416,397	352,067	300,799	213,507	1,525,128

※古網漁場における蓄養わかし水揚量含む

２ 平成 29 年下半期(7～12 月)の漁況予測

水産技術研究所伊豆分場は、神奈川県水産技術センターと共同で、2017 年下半期（７～12 月）の伊豆東岸定置網（相模湾）における漁海況を表２のとおり予測しました。

海況	黒潮は９～10月はB型、11月以降、C型基調で推移する。 沿岸水温は９～10月はB型流路からの暖水波及により「高め」～「極めて高め」、11月以降は「平年並み」～「低め」で暖水波及時に「高め」。
マアジ	漁獲は前年に引き続き低調に推移。主体は体長20cm以下の０・１歳魚。
マサバ	ゴマサバに混じる程度。主体は体長28～30cmの２・３歳魚。
ゴマサバ	漁獲は前年を下回る。主体は体長30～35cmの２歳魚以上。
マイワシ	漁獲は前年を下回る。主体は体長10～15cmの０歳魚。
カタクチイワシ	漁獲は前年を上回る。体長９mm未満の未成魚主体に、９～11cmの成魚が混じる。
ブリ	漁獲は前年を上回る。いなだ・わかし銘柄主体。

・ 海況

黒潮は、７～８月はC 型で推移しました。沿岸水温は、７月は「平年並み」～「やや高め」、８月は「高め」で推移しました。黒潮は９月中に B 型に移行し、11 月にはC 型に移行すると予測しました。沿岸水温は、９～10 月は黒潮からの暖水波及の影響で「高め」～「極めて高め」、11 月以降は「平年並」～「低め」で推移し、黒潮からの暖水波及時は「高め」となると予測しました。

・ マアジ

近年、マアジ太平洋系群資源は低調に推移しています。伊豆東岸定置網における漁獲量は、2010 年頃より減少傾向で推移しており、2017 年上半期は前年を上回ったものの、極めて低調な漁獲でした。下半期の伊豆東岸定置網では、尾叉長20cm 以下の０～１歳魚主体に漁獲されています。伊豆東岸定置網における下半期のマアジ０歳魚の漁獲量は、上半期のジンダ漁獲量と比例関係にありますが、今年上半期のジンダの漁獲量は非常に少なく、また、上半期の１歳魚以上の漁獲も低調であったことから、下半期も低調な漁獲が続くと予測しました。

・ マサバ

マサバ太平洋系群資源は近年増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年をやや上回りました。2001 年以降の伊豆東岸定置網にお

ける下半期のマサバは、概ね 28～30cm の２～３歳の成魚主体に漁獲されていますが、漁獲量は 10 トン前後と非常に少ないため、ゴマサバに混じる程度と予測しました。

・　**ゴマサバ**

ゴマサバ太平洋系群資源は近年減少傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年の４割程度と低調でした。2001 年以降の伊豆東岸定置網における下半期のゴマサバは、概ね 30cm 以上の２歳以上の成魚主体に漁獲されています。平成 29 年度第１回長期漁海況予報では、「伊豆諸島周辺海域におけるゴマサバ太平洋系群の来遊量は、２歳魚は前年を下回る、３歳魚は前年を下回る」としていることから、伊豆東岸定置網でも、前年を下回ると予測しました。

・　**マイワシ**

マイワシ太平洋系群資源は近年増加傾向で推移していますが、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年の３割程度と低調でした。下半期の伊豆東岸定置網では、被鱗体長 10～15cm の０歳魚主体に漁獲されています。相模湾沿岸における夏期以降のマイワシ０歳魚の漁獲量は、マシラス漁獲量と比例関係にありますが、３～６月のマシラス漁獲量は前年を下回ったことから、下半期は前年を下回ると予測しました。

・　**カタクチイワシ**

カタクチイワシ太平洋系群資源は近年減少傾向で推移していますが、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年を上回りました。下半期の伊豆東岸定置網では、被鱗体長９㎜ 未満の未成魚主体に９～11cm の成魚も漁獲されています。例年、伊豆東岸定置網における下半期の漁獲量は少なく、平均で 60 トン程度、前年は 52 トンでしたが、今年は７月の時点で漁獲量 64 トンと非常に多かったことから、前年を上回ると予測しました。

・　**ブリ**

ブリ太平洋系群資源量は近年増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も高い水準にあります。下半期の伊豆東岸定置網では、わかし・いなだ銘柄主体に漁獲されています。伊豆東岸定置網における銘柄わかし・いなだの上半期と下半期の漁獲量には、弱い比例関係があります。今年上半期のいなだ・わかし銘柄の漁獲量は前年を大きく上回った（約５倍）ことから、下半期は前年を上回ると予測しました。

（鈴木勇己）